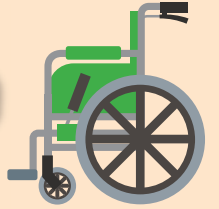


特集2

バリアフリーって何だろう？



最近よく聞く「バリアフリー」。実際に何に取り組んでいるのか、気になることを聞いてみました。

「バリアフリー」とはどのようなものですか？



簡単に言うと、障がい者の方やお年寄りの方、妊産婦さん、ベビーカーを使う子育て世代の方々が生活するときに妨げになっているものを取り払うことです。

例えば、車いすを使う方のために段差をなくす、階段の^{のぼ}り下りが難しい方のためにエレベーターを設置するといったことです。車いすが通れる幅の広い自動改札や、公園などにある車いす利用者などのための駐車スペースも、このバリアフリーの考え方から設置されているんですよ。



国土交通省はバリアフリーのどんなことを担当しているのですか？



基準や方針、整備の目標を定めたり、心のバリアフリーに関する取り組みをみなさんに広める活動もしています。



国土交通省が進めているバリアフリーとはどんなものですか？



法律でバリアフリー施策を始めたのは平成6年。まずは建物から進めようということで始まり、平成12年には公共交通に対する法律をつくりました。その後、バリアフリーは社会全体で取り組む必要があるということで、平成18年にこの二つの法律を一つにし、内容も充実させました。これが「バリアフリー法」です。新しいバリアフリー法の中では、心のバリアフリーについても書かれているんですよ。



総合政策局の

東野文人さんに聞いてみよう！



心のバリアフリーって？



施設などの“ハード”の整備には時間がかかります。一方で、バリアフリーとはどういうことかという内容を理解してもらえれば、人々の行動はすぐにでも変えることができますよね。

例えば、歩道に設置されている点字ブロックの上には自転車を止めないようにするとか、階段の上り下りでお年寄りが困っていたら荷物を持って手伝ってあげるとか、一人ひとりにできることを実行することが、心のバリアフリーだと考えています。



具体的にどのようなことをしていますか？



各地の運輸局や整備局で、小中学生や一般の方を対象に「バリアフリー教室[※]」を行っています。具体的には、Googleなどを使って弱視者の体験をしたり、体におもりをつけてお年寄りの感覚を体験したりしてもらっています。実際に体験すると、障がい者の方やお年寄りの大変さがわかり、今後は手伝ってあげたいという思いがこみ上げてくるようです。



これからのバリアフリーの目標はなんですか？



ハードとソフトは両輪で動かなければならないと考えていますので、道路や公共交通網などのバリアフリー化と心のバリアフリーを同時に進めています。また、2020年には、オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。特にパラリンピックに関しては、世界中からさまざまなハンディキャップをお持ちの方々が日本に来られますので、まずは6年後を目標に、バリアフリーの整備目標が達成できるよう、今後も取り組みを進めていこうと思っています。



設備だけじゃなくて、
“心のバリアフリー”
もたいせつなんだね



それでは具体的な
取り組みを見てみましょう

※バリアフリー教室については、各整備局・運輸局のホームページを見てね
地方整備局 <http://www.mlit.go.jp/about/chihoseibi.html>
地方運輸局 <http://www.mlit.go.jp/about/chihounyu.html>

どんな **バリアフリー** を しているか見に行こう!

駅の
バリアフリー

元町・中華街駅

みなとみらい線・千葉直義さんに
案内してもらいました!

「車両、ホーム、駅舎はもちろん、

職員の意識もバリアフリーをめざしています」



横浜高速鉄道会社が運営するみなとみらい線は、横浜の都心部にお客さまを運ぶ路線として全駅で「誰にでもやさしい駅」を目指しています。車いすの方や高齢者の方が楽に利用できるよう、段差を少なくしたり、視覚障がい者の方へは、コンコースやホームに誘導ブロックを設置しています。また聴覚障がい者の方や高齢者の方に分かりやすい駅にするため、サインは大きく見やすくしています。

足の悪い方から階段は上りより下りの方が大変だと聞きました。開業当時からすべての駅に、上りだけでなく下りエスカレーターをルート以上設置しているのも大きな特徴です。車いすのお客さまが電車をご利用の際には、職員がスロープ板を持ってお手伝いしています。こうした介助がスムーズにできるよう、サービス介助士の資格を持つ職員もおり、バリアフリーに関する研修は全職員が受けているんですよ。

現在は、駅施設の改修も順次進めています。元町・中華街駅では平成21年8月、駅の真上にあるアメリカ山公園の開業に合わせ、構内から直接屋上の園地部分までエスカレーター、エレベーターで行けるようにしました。横浜駅は、今年度中にホームドアを設置する予定です。将来の高齢化社会に向けて、バリアフリーの質も変わってくると思いますので、今後もお客さまの声を聞きながら、さらに「誰にでもやさしい駅・路線」を目指していきたいと考えています。



車いすの方が使いやすい蹴込み型の自動券売機を設置しています



車両床面の高さを低くし、ホームとの段差を極力少なくしています



1編成に2カ所、車いすスペースを設けています



多機能トイレは男女両方に設置しています



すべての人に分かりやすく見やすいサイン表示を採用しています



副都心線・西早稲田駅

東京メトロ・三丸さんと滝下賢一さんに案内してもらいました!

「国の基準よりも高い目標をもってお客様の利便性に配慮したい」

東京メトロでは、昨年度から始まった中期経営計画に基づいてバリアフリー化を進めています。

路線は古いものもあり、ホームから改札までエレベーターがない駅もあるので、現在、エレベーターなどによるルート上の整備を進めており、平成26年度末までに100%整備を目指しています。また、1ルートが確保できた駅のうち、病院に近い駅などでさらなる利便性向上のため、2ルート目以降のエレベーター整備を推進します。

エレベーターが整備できない駅は、階段昇降機を設置していますが、利用するには駅員の補助が必要になり、お客さまにとっては不便なため、できるだけ速やかにエレベーター整備を進めているところです。

また近年、転落防止のためのホームドアの整備を望む声が多くあり、現在、副都心線、南北線、丸ノ内線、有楽町線や千代田線の一部区間(179駅中84駅)に整備し、銀座線も平成30年度までに整備する予定です。

多機能トイレは、現在96%の駅に整備され、来年度までに100%整備を予定(ただし、大規模改良予定駅を除く)しています。しかし、一般のお客さまも多機能トイレを利用されることがあり、車いすをご利用のお客さまなどが使えないということもあります。一般のお客さまへは、思いやりの心を持って一般トイレを利用していただくよう、呼びかけています。



滝下 賢一さん



三丸 力さん



西早稲田駅はハーフハイトタイプのホームドアが整備され、転落事故や接触事故を防いでいます



西早稲田駅は、地上に出るルートに20人乗りの大型エレベーターも整備しています



エレベーターの前には誘導ブロックとサイン表示があります



視覚障がい者の方にも駅構内を触知及び点字で案内しています



色覚障がい者の方にもわかりやすく、路線図もひと工夫されています



東京メトロと都営地下鉄の各路線のバリアフリー設備整備状況がひと目で分かる「バリアフリー便利帳」を作成しています。各駅の改札付近のラック、駅事務所などで配布しているのでぜひご参考ください。

建物の バリアフリー

へえ～
こんな所も!



横浜みなと博物館

帆船日本丸・横浜みなと博物館
志澤政勝副館長に
案内していただきました!

施設のバリアフリーに加え
心、言葉のバリアフリーにも対応

横浜みなと博物館は、「横浜港の150年の歴史や横浜港の仕組み」を紹介しています。今年でちょうど開館25年。2009年の横浜開港150年を機にリニューアルしました。年間入館者数は18万3千人。小さなお子さんから高齢者まで、さまざまな年代の方に利用していただいています。

最近のご高齢の来館者も増え、車いすの方も増えてきました。以前は展示の間の通路が狭かったり、次の展示を見るたびに階段



展示スペースの間は車いすでも十分に通れる広さになっています



正面入り口のほかに、道路から誘導ブロックを設置している入り口もあります



多目的トイレにはどんな設備があるのかもわかりやすく表示しています



輸入食品を紹介するコーナーでは、小さいお子さんが怪我をしないように角にはクッションをおいています



展示室まではスロープとエレベーターで段差なく行けるようにしています



新たに設置したスロープです。カフェの入り口までスムーズに移動できるようにしました



隣接する帆船日本丸には甲板まで車いすでも上がることができます

を昇る必要があったりして、車いすの方や足の不自由な方は大変でした。現在は、基本的に段差がないように改修し、ごなたでもスムーズにすべての展示を見学していただくことができるようになっていきます。

ほかにも、さまざまな障害をお持ちの方にも使いやすい多目的トイレを2カ所に増やし、赤ちゃん連れのお客さま用に授乳室も設けました。

車いす用のスロープはもともとあったのですが、総合案内所からカフェまでの間に新たに1カ所設置しました。

最近では外国からのお客さまも多いので、言葉のバリアフリーにも取り組んでいます。重要な展示の解説は和英併記にし、各コーナー名を日本語、英語、中国語、韓国語の4カ国語で表記したり、リーフレットも用意。英語対応可能なボランティアガイドもいます。

最近、イスラム教徒の方が礼拝場所を求めていらつしやいましたので、急ごしらえで対応したことがあります。今後は、メッカの方向を調べ、絨毯を置くなどして対応を考えなければ…と思っているところです。

これからも、ごなたでも見学しやすく、そして横浜港の歴史や文化を理解していただけるような博物館にしていきたいと思っています。



出入口には車いすやベビーカーが通れるように通路が広がっている部分があります

遊んだり、休んだり、スポーツをしたり、多くの方が利用する公園には、さまざまなバリアフリー設備があります。みなさんの近くの公園はどうでしょうか。

公園のバリアフリー



道路から公園へ向かう道には点字ブロックが設置されており、道路と段差がないようになっています



入り口から設置した点字ブロックは点字案内板に続いています



公園事務所にはAEDが設置されています



トイレには人が近づくと音が出る装置がついています



多目的トイレにはどんな人が利用するトイレか、どんな設備があるのかわかりやすく表示されています

トイレにはベビーカーが設置されていることがわかるような表示があります

